

9月20日

テーマ:「罪の無い者が」

聖書箇所: ヨハネの福音書 8章 1節~11節

◆今日のみことば

「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」

ヨハネの福音書 8章 7節b

◆メッセージ

みんなにとってイエスさまはどんな神さまですか? やさしい神さま? それとも厳しい神さま? ... イエスさまの教えには、きびしすぎるように感じるものもありますね。たとえば、「兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし』と言うような者は、最高議会に引き渡されます。また、『ばか者』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。」(マタイ 5:22) と。「きびしいなあ」「大変だなあ」と思う人が多いでしょう。

でも、イエスさまが罪について教えるのは、その人が自分の罪を知り、認め、悔い改めるためです。聖書が厳しく罪を明らかにするのは、多くの人を救いに導くためです。罪を悔い改めて、イエスさまの十字架のゆるしと愛を受けることができます。

今日の聖書箇所は、律法学者とパリサイ人が罪を犯した女の人を連れてきました。こんな悪い人は、石打にするぞ、と、さばく気持ち満々。イエスさまに質問しました。「旧約聖書のなかには、こういう罪を犯した女を石打ち(死刑)にするように命令しています。あなたは何と言われますか」と...



イエスさまは、すぐに返事せず、地面に何かを書きつけておられました。これはイエスさまのやさしさでもありました。人の心の中も知っているイエスさまは、この人たちの心に悪い考えがあることを気付かせようとしたのでしょう。それから、「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい」と言いました。イエスさまは女の人をうやむやにはなさいませんでした。罪は罪だからです。だけど、他の

人の罪を責める人の心にも罪があることも、しっかり考えさせたのです。罪のない人なんていませんね。

罪がある人は、他の人をさばいてはいけません。それは神さまだけがなさることだからです。そのように人の罪をさばくことができる神であるイエスさまも、自分の罪を認めて悔い改める人には「わたしもあなたを罪にさだめない」とおっしゃって、その罪を赦してくださるのです。



自分に罪があることを忘れて、他の人の罪をさばこうとしないように注意しましょう。

◆お祈り

「ゆるされてもまだ罪のせいしつがあることをわすれないうで、他の人たちにやさしくできますように。」

(中野キリスト教会牧師 廣田信之)